

福田長官が辞任

後任に細田副長官

福田康夫官房長官(六)は七日午前の記者会見で、国民年金保険料の未納、未加入問題への対応が「国民の政治不信を増幅させた」として、引責辞任する意向を表明した。これに先立ち小泉純一郎首相に辞意を伝え、了承されたという。

七閣僚の未納をめぐる政権への批判を最小限に抑えるのが狙いとみられるが、内閣を実務の要として支えてきた福田氏の辞任で小泉政権が大きな打撃を受け

るのは必至だ。福田氏と同じく保険料が未納だった中川昭一経済産業相らほかの六閣僚や、民主党の菅直人代表の進退問題にも波及する可能性がある。



四月二十八日、国民年金未払い問題の記者会見で厳しい表情を見せる福田官房長官(首相官邸)

自民党森派幹部は後任に細田博之官房副長官(六)が固まったことを明らかにした。午後正式決定の見通し。福田氏は記者会見で七閣僚の未納問題につ

いて「政治に対する国民の信頼を失ったことはそんなに堪えない」と言明。年金支払い状況の説明を「個人情報」として拒んだ経緯を念頭に、「私自身の保険料未払い発表までの対応の仕方に不手際があり内閣のスポークスマンとして、国民におわび申し上げたい」と陳謝しながら、年金制度改革関連法案の与党、民主党合意を機会に「けじめをつける意味で職を辞したい」と表明した。

これを受け、小泉首相は自民党の安倍晋三幹事長、福田氏と官邸で会談「福田長官の意志は固い。やむを得ない」と述べた。

福田氏は二〇〇〇年十月に森喜朗内閣で中川秀直前官房長官の後任として初入閣。〇一年四月の小泉内閣発足以降も留任し、在任期間は約三年半にわたり、今年四月に歴代官房長官として一位になっていた。